

# 稲作情報



NO. 11

越後さんとう農業協同組合  
電話番号(0258)41-2887

1等級比率目標:90%以上/10a当たり収量目標:510kg(コシヒカリ)

平成29年 8月16日

## 目指せ！4年連続1等級比率90%以上!!

適正な  
水管理

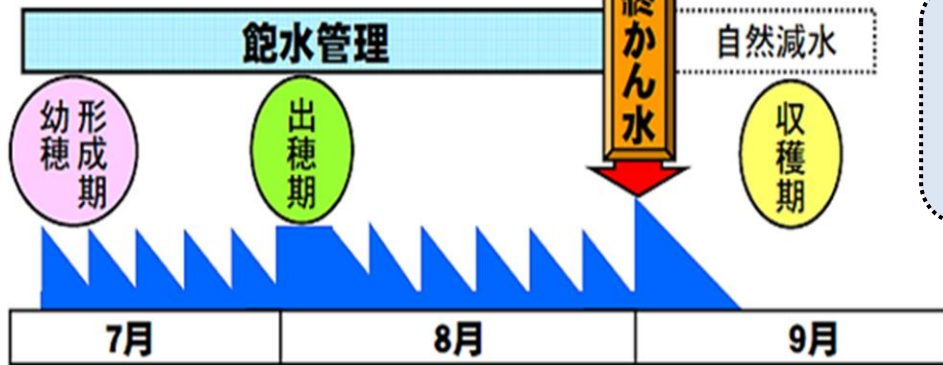
適期  
収穫

適正乾燥  
調製

全量  
1等米

### 1. 今後の水管理

【コシヒカリの水管理のイメージ】



出穂後 25 日以降を目安に！  
あわせて暗渠栓の開放を可能な限り遅くする

出来る限り遅くまで土壌水分を維持することで、登熟を促進するとともに、高温、特にフェーン現象が予想される場合は、速やかにかん水し、土壌乾燥防止に努めてください！

### 2. 適期収穫と適正な乾燥・調製

#### (1) 出穂期と刈取適期(予想)(平成29年8月15日現在)

品種名	出穂期	刈取適期(予想)	積算温度の目安
五百万石	7月19日～7月23日	8月26日～8月30日	975℃
たかね錦	7月24日～7月30日	8月31日～9月7日	
わたぼうし	7月22日～7月26日	8月29日～9月2日	
ゆきん子舞	7月24日～7月26日	8月31日～9月2日	
こしいぶき	7月25日～7月29日	9月1日～9月6日	
ゆきの精	7月25日～7月28日	9月1日～9月4日	1,000℃
ゆきみのり	7月20日～7月25日	8月27日～9月2日	
こがねもち	7月25日～7月31日	9月2日～9月9日	
コシヒカリ(移植)	8月2日～8月7日	9月11日～9月17日	1,025℃
コシヒカリ(直播)	8月8日～8月13日	9月19日～9月25日	
越淡麗	8月6日～8月10日	9月17日～9月22日	1,050℃
あきだわら	8月6日～8月10日	9月18日～9月24日	
新之助	8月8日～8月12日	9月21日～9月26日	

※ 刈取適期(予想):長岡アメダスデータの積算で算出(8月15日までは本年値、以降は平年値)  
※ あくまでも目安ですので、ほ場ごとの出穂期や今後の天候等により前後します。刈取適期(予想)を参考に、必ずほ場ごとに実際の黄化割合を確認し、収穫適期を判断して下さい。

必須 = “適期収穫”

刈取適期うちわを活用して、適期収穫を行いましょ！

### (2) 実際の“収穫適期の判断”

収穫適期は、黄化割合が85～90%程度になった頃(上位3～4本目の1次枝梗に着生する2次枝梗が黄化した頃)です。

栽培条件等により、ほ場ごとに収穫適期が前後します。早刈り・刈遅れにならないよう必ずほ場ごとに黄化割合を確認し、収穫適期を判断して下さい。

積算温度に基づく刈取適期予想【左下表】を参考に、実際に籾の黄化程度を確認し適期に刈り取りしましょう！

### 刈取適期うちわ



- ✗ 早刈り → 青米・未熟粒の混入増加、収量低下
- ✗ 刈遅れ → 着色米・胴割米の増加(高温年:基部未熟粒の増加)、倒伏助長

### (3) 乾燥

- ◇ 収穫後は籾を速やかに乾燥機に搬入・通風し、ヤケ米を防止しましょう。
- ◇ 毎時乾減水分は0.5～0.6%としましょう。0.8%を超えると、胴割米の発生が多くなります。→ 成熟期～収穫期の高温等により、立毛胴割れが予想される場合は、毎時乾燥速度が0.5%以下になるよう送風温度を低く設定するとともに、過乾燥には十分に注意してください。特に、早生品種では登熟期前半が高温となったことから注意が必要です！
- ◇ 仕上げ水分は14.5～15.0%に仕上げましょう。→ 過乾燥は胴割れ・食味低下、仕上げ水分15.0%以上は、玄米水分の戻りによるカビ米の発生原因となります。  
※JA米の要件は検査時の水分値が15.5%以下(契約わたぼうしは15%以下)となっています。【必ず厳守しましょう!】

### (4) 調製

- ◇ ふるい目は1.85mm以上(五百万石・たかね錦・越淡麗:2.0mm以上)とし、未熟粒や被害粒が多い場合には、必要に応じて1.90mmのふるい目や色彩選別機を活用して整粒歩合の向上に努めましょう。(ふるい目1.85mmと1.9mmでは整粒歩合が約2%向上します)
- ◇ 適正な流量による丁寧な選別を徹底し、籾・精米や異物混入を防止しましょう。

### (5) 異品種・異物混入防止対策

クサナム・ヒエ等の雑草除去や農業機械の整備・清掃の徹底により、虫や異種穀粒混入を防止しましょう。→ 特に、品種切替えの際は必ず農業機械の掃除を徹底してください！

#### 平成28年産 刈取・乾燥・調製ミスが主要因と推察される格落数量

	数量	原因	数量
胴割粒	3,313俵	水分過多	34俵
もみ混入	428俵	部分ヤケ	27俵
発芽粒	108俵	もち混入	19俵

平成28年産においても、刈取・乾燥・調製ミスが主要因と推察される格落ちが多く見られました。

最後まで気を抜かず、残された技術対策を徹底しましょう！



～～営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ～～

次回稲作情報:9月中旬「稲わら秋すき込み、土づくり」(予定)